



地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り



曇り一部雨



雨

好調

不調

業 種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
製 紙	印刷・情報用紙 新聞用紙	▶	4月の国内出荷は、印刷・情報用紙は、前年同月比6.1%減と11ヵ月連続で減少した。新聞用紙も同6.0%減と6ヵ月連続のマイナスとなった。洋紙の国内需要縮小が進むなか、大手メーカーで洋紙事業見直しの動きがみられる。
	衛生用紙	▶	4月の国内出荷は前年同月比3.6%減と、3ヵ月連続で減少した。製品値上げ前にもかかわらず出荷は伸びなかった。洋紙の需要減から、生産品目を衛生用紙に転換する動きもあり、先行きの動向が注視される。
	紙加工など	▶	紙おむつの生産は高操業が続いている。国内は大人用が好調だが、メーカー間での価格競争が厳しくなっている。ベビー用は輸出やインバウンド消費、越境ECなど海外需要が旺盛。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼	▶	産業機械関連は、建設機械・農機を中心に海外の需要が引き続き堅調。プラント関連も、製鉄・高炉メーカーや電力会社の設備更新需要を受け、受注は堅調に推移している。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
造 船	遠 洋 近 海	▶ 日本船舶輸出組合によると、5月の輸出船契約実績は12隻・50万400総トンとなった。大型コンテナ船やフェリーなどの建造で足元の操業度は高いが、主力のバルカーは船主からの引き合いが依然低調。
	内 航	▶ 高船齢の499GT以下の中小型貨物船や、タンカーのリブレイス需要を取り込もうとする造船所間の受注競争が激化。想定以上の鋼材高によって、収益悪化が懸念される。

業 種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海 運	遠 洋	 ▶ 	鉄鉱石や石炭、穀物などの輸送需要が好調で、BDI(バルチック海運指数)は1300～1400前後で推移。コンテナ船は、超大型コンテナ船の相次ぐ就航で船腹供給が過剰となり、運賃が弱含んでいる。燃料費上昇もあって、コンテナ船社の収益環境は厳しい。
	近 海	 ▶ 	堅調な荷動きを背景に、船腹需給はタイトになっている。ただ、備船料・運賃は船主やオペレーターの期待するレベルには届かず、先行き不透明な状況。
	内 航	 ▶ 	貨物船の荷動きは、火力発電向けの石炭や建設資材などが堅調な一方、自動車やセメントは前年同月比10%程度減少。タンカーの荷動きは、黒油(重油)や白油、LPGなど総じて前年を下回って推移。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 ▶ 	5月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は5,007梱で、前年同月比3.4%減となった。ギフト品や販促品に弱さがみられるものの、生産量としては適正になってきたとの声もある。業界としては踊り場にあり、各社独自ブランドの強化が進む。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖	 ▶ 	マダイの浜値は960円/kg前後の高値圏で推移。サイズが1.5kg超を中心に在池尾数が少なく、浜値は強含み。ハマチの浜値は835円/kg前後で、3年生を中心に在池尾数が少なく、浜値は上昇傾向。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
食 品	 ▶ 	削り節の原料であるカツオは、バンコク相場(国際相場)が1,750ドル/トン前後でやや上昇傾向。一方、国内相場は順調な水揚げで170円/kg前後で推移。蒲鉾では、国内でスリ身価格の値上げ圧力が強まっている。世界的な需要の高まりから、北米産が5～10%程度の相場高になっていることが要因。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建 設	 ▶ 	5月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比1.3%減の103億円であった。発注者別では「独立行政法人等」や「その他の公共的団体」で大幅減となった。4月の住宅着工戸数は前年同月比39.1%減の544戸となった。特に「貸家」が相続税対策のために着工戸数の多かった昨年の反動を受けた。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観 光	 ▶ 	4月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比8.4%減の65,530人と、6ヵ月連続で前年を下回った。4月の県内主要観光施設の入込み客数は、東予、中予が前年を下回ったものの、南予が前年を上回り、全体では前年同月比横ばいとなった。